

大風 便り 第229号

ブログ発信中 <http://oodakomuseum.shiga-saku.net/>

編集・発行 世界風博物館東近江大風会館 令和7年6月16日発行

〒527-0025 滋賀県東近江市八日市東本町3番5号

TEL: 0748-23-0081 FAX: 0748-23-1860

IP: 050-8034-1140

開館時間: 9時～17時 休館日: 水曜日、第4火曜日、祝日の翌日

平成18年度から指定管理者制度により(公財)東近江市地域振興事業団が管理しています。

毎月第3日曜日は「家族ふれあいサンデー」 東近江市民の方は、「ふれあいカード」をお持ちの上、ご家族でお越し下さい

大阪・関西万博に合わせて多彩な世界の風を紹介

＝夏休み特別企画「万国風覧会」＝ ～100の世界と地域の風を展示～

開催期間: 7月19日(土)～8月31日(日)

第1期: 7月19日(土)～8月1日(金)

第2期: 8月2日(土)～8月15日(金)

第3期: 8月16日(土)～8月31日(日)

※展示は3期に分け、作品を入替えて展示します。

開館時間: 9:00～17:00(最終入館は16:30まで)

入館料: 一般300円 小中学生150円

休館日: 水曜日、第4火曜日、8/12(火)

万国風覧会

いろいろな国の風を見てみよう!
世界100以上の国と地域の風が集まる

令和7年
7月19日(土)～8月31日(日)

1 7月19日(土)～8月1日(金)
2 8月2日(土)～8月15日(金)
3 8月16日(土)～8月31日(日)

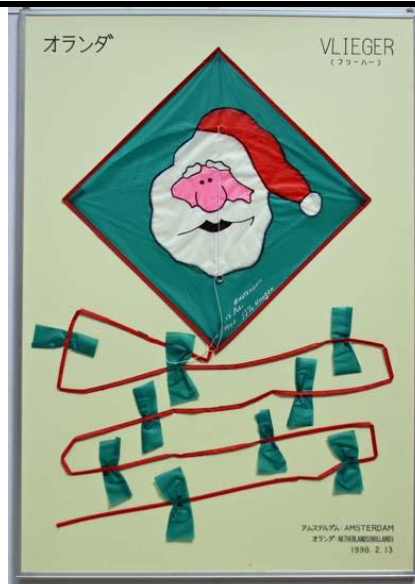
開催期間

本展示は、三重県津市にある世界風博物館の館長である坂井田茂氏が長年にわたり収集した世界各国の風と、収集時の様子を記録した貴重なパネルを展示するものです。

裏面には、世界の風地図が!

坂井田 茂氏

1953年6月25日生まれ。中学校の美術教員として、美術の授業で生徒と共に立体風を制作したことが、風に魅せられるきっかけです。40年以上にわたり、世界120カ国以上を旅して約1800点もの風を収集しました。そのコレクションは貴重なものです。坂井田さんはそれぞれの風につづる歴史や文化、エピソードを熱く語り、風の魅力を伝えています。



オランダ



アイルランド



インド



スウェーデン



エジプト



スリランカ



中国



マレーシア



東近江市板橋の百畳敷大ホール
日本・世界の風を展示
世界風博物館
東近江大風会館

〒527-0025 滋賀県東近江市八日市東本町3番5号
TEL: 0748-23-0081 FAX: 0748-23-1860
IP電話: 050-8034-1140

指定管理者制度により、公益財団法人東近江市地域振興事業団が管理運営を行っています。

開館時間 午前9時～午後5時
(ただし入館は午後4時30分まで)

期間中の休館日 水曜日、第4火曜日、8/12(火)

入館料 一般/300円 小・中学生/150円

東近江大風会館HP
<https://higashiomori-j.com/oodakomuseum>

東近江大風会館ブログ
<http://oodakomuseum.shiga-saku.net/>



毎月第3日曜日は「家族ふれあいサンデー」です。東近江市民は保護者と18歳以下の子どもを含む家族で「ふれあいカード」をご持参いただきますと無料でご入館いただけます。

「滋賀県勤労者互助会会員登録」ご提示で、50円引きでご入館いただけます。



東近江大風会館では、現在開催中の大阪・関西万博に合わせて、世界各地の珍しい風を一堂に集めた特別企画展を開催します。会期は7月19日(土)から8月31日(日)まで。夏休み期間中、世界の多様な風文化に触れる絶好の機会となりそうです。

今回の展示は、三重県津市にある世界風博物館の館長、坂井田茂さんが40年以上にわたり、世界120カ国以上を旅して収集した100の国と地域の貴重な風をそれぞれの収集時の様子を記録したパネルで展示します。作品が多数あり、展示は3期に分けて行います。期間中に内容が入れ替わるため、何度訪れても新しい発見があるでしょう。

坂井田茂氏(1953年6月25日生)

中学校の美術教員として、美術の授業で生徒と共に立体風を制作したことが、風に魅せられるきっかけです。40年以上にわたり、世界120カ国以上を旅して約1800点もの風を収集しました。そのコレクションは貴重なものです。坂井田さんはそれぞれの風につづる歴史や文化、エピソードを熱く語り、風の魅力を伝えています。

＝近江鉄道八日市駅構内の大鳳をリニューアル＝



近畿地方の梅雨入りが発表され、週間天気予報がずっと雨で、少しテンションが下がってしまいます。雨の日が続くと空を見上げることが減りますが、近江鉄道八日市駅にお越しの際は、ぜひ上を見上げてみてください！

この度、近江鉄道八日市駅構内にある市民ホールの上空に展示している大鳳をリニューアルしました！今回展示した大鳳は、今年の2月11日（祝）に東近江市制20周年を記念して飛揚した20畳敷東近江大鳳のミニチュア版で、2畳敷の大鳳です。展示した大鳳のはんじもんは、上部に鳳凰、下部に「祝」の文字、そして中央には東近江の文字が描かれ、「奉祝 東近江」を表しています。階段を上がった通路からご覧いただけますので、ぜひご覧ください！



＝万博と東近江大鳳の歴史的な繋がり＝ ～空に舞う、太陽の塔とモノレール～



現在、大阪・関西万博が開催され、日本中が活気に包まれています。日本で初めて開催された万博は、1970年の大阪万博（EXPO'70）でした。この記念すべき出来事と、滋賀県東近江市に伝わる東近江大鳳には、深く感動的な繋がりがあるのをご存知でしょうか。

東近江大鳳は、国や地方の大きな節目を祝う際に飛揚されてきました。EXPO'70の開催を祝い、当時の人々は80畳敷の大鳳を製作するというプロジェクトに取り組みました。

この大鳳は、万博開催に先立つ1969年11月23日に市内の中学校で試し揚げが行われ、その迫力ある姿は多くの市民を魅了しました。そして、いよいよ万博開催直前の1969年12月8日、大阪万博本部前の広場で、その80畳敷大鳳が華々しく飛揚されたのです。この大鳳の絵柄には、万博のシンボルである岡本太郎氏がデザインした「太陽の塔」が堂々と中央に描かれました。特筆すべきは、大鳳の下部に描かれた模様です。当初、下部回りに何を描くべきか悩んでいた関係者に対し、なんと岡本太郎氏ご本人が助言を与え、「モノレール」を表す模様を描くことになったのです。これは、当時の最先端技術の象徴であったモノレールを、伝統的な大鳳に取り入れるという斬新な発想でした。さらに、大鳳の上部には「賀正」の文字が大きく描かれ、カレンダーになったと聞かれています。

大阪万博と深く結びつき、当時の人々の夢や希望を乗せ、空高く舞い揚げられました。

＝2025年7月の予定＝

19日（土）～8月31日（日）
夏休み特別企画「万国風覧会」
20日（日） 家族ふれあいサンデー
26日（土） 聖徳まつり 江州音頭総おどり
7月の休館日：7/2・7/9・7/16・7/22・7/23・7/30

＝日本玩具博物館に行ってきました＝



令和7年5月27日に姫路の田園地帯にある6棟の土蔵造の日本玩具博物館に行ってきました。目的は他の鳳に関する施設や類似施設などの取組みや優れた点を学び大鳳会館の運営に生かすためです。

日本玩具博物館では、日本をはじめ世界160ヶ国約9万点の玩具や人形を所蔵する私立の博物館です。井上重義館長が収集を始め自宅の一部を展示室として公開したのが始まりで、約50年の間運営されています。収蔵物としては、江戸時代から現代までの日本の郷土玩具（伝統玩具）、ヨーロッパのアンティークドールやアジア・アフリカの民族玩具など多岐にわたって収集させている

とのこと。1号館は企画展示会場、2号館は明治時代から現在までの玩具の展示、3号館は伝統工芸の展示、4号館は日本・世界の郷土玩具の展示、6号館は特別展示会場です。

日本の玩具は、各地特色のある郷土玩具が地域ごとに展示されており、その多様性と奥深さに触れることが出来ます。特に干支玩具や縁起物などの日本の文化と密接に結びついた玩具は必見です。ブリキのおもちゃ、セルロイドの人形、めんこ、コマ、羽子板等の展示物やテレビヒーローやキャラクターの玩具は、戦後生まれの昭和世代には、昔遊んだ記憶のあるなつかしい玩具で、子どものころに遊んだ記憶がよみがえってくると思います。

また、今では珍しい檜皮葺御殿飾り雛や端午節句飾りも展示されています。宮参りや節句などの折り子どもの無事な成長と幸福を願って作られた晴れ着は、今ではほとんど見られなくなった貴重なものです。世界の玩具については、なじみの少ない玩具が展示されており異文化に触れる良い機会になると思います。

展示物は、テレビ番組の「〇〇〇〇鑑定団」では高価格の査定がされそうなものが一杯あります。一度、日本玩具博物館に行かれて、昔の日本や世界の文化に触れられては如何でしょうか。



＝有馬玩具博物館＝



こんにちは、白田です。突然ですが、皆さんは兵庫県神戸市にある有馬温泉に行かれたことはありますか？草津温泉（群馬）や下呂温泉（岐阜）と並ぶ日本3名泉に数えられ、金の湯銀の湯、炭酸せんべいなどが有名ですね。今回はそんな格式高い温泉地にあり、先日職員研修でも訪れた有馬玩具博物館についてご紹介します。

有馬玩具博物館は2003年に開館し、グリコのおもちゃデザイナーであった加藤裕三氏やオートマタ作家の西田明夫氏によって収集された玩具が展示されています。その数なんと約4000点！海外の玩具や現代の玩具など、まさにおもちゃ箱の中に入り込んだかのような世界観が展開されています。さわって遊べるものも多くあり、おもちゃってこんな手触りだったよなあと、これこんな風にしてみたら楽しいんじゃない！？など自然と大人の童心も揺さぶられてしまいます。中でも私が特にオススメしたいのは、からくり/オートマタのフロアです。身の回りに機械はありふれているかもしれませんが、からくりとしてみる機会はありません。壁には作品とボタンが設置してあり、押すとオートマタが実際に動く様子を鑑賞できます。木や金属でできたものからペーパークラフトのからくりまで数多く並べられていますが、キャバレーメカニカルシアターの作品は特にユーモラスな動きとキャッチーなデザイン、ブラックジョークで、つい「これ欲しい～」とつぶやいてしまうものばかりでした（笑）。工房の再現やスケッチのパネル等も展示されており、作り方に関する書籍もありました。一階にあるミュージアムショップでは実際に遊べたおもちゃや書籍を購入できる他、絵本作家のピンバッジなどの販売もありました。近くにお立ち寄りの際は、ぜひ鑑賞されてみてはいかがでしょうか？

